

2018.4.2 新入職者を迎え 理事長挨拶

このたびは、ご入職おめでとうございます。

厳しい審査に合格してこられた皆様に、心から祝福を申し上げますと共に、この人事選考に東奔西走された関係職員に深謝いたします。そして、皆さんをこれまで支えてくださったご両親さまはじめご家族の皆様にも、感謝申し上げます。

本日のお話の key words は、1.多職種連携、2.アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）、3.コミュニケーションの3点です。

皆さんは、念願の職場に入り「何をしたいのか」を再確認しておいて頂きたいと思います。病める患者さんを「何とか救いたい」「何とか力になりたい」、これが原点だと思います。そこに皆さんの雑念や我儘や偏見が入る余地はありません。常に真剣勝負です。医療人の働き方改革が論議されている中で、皆さんが労働時間枠内で質の高い医療をどれほど提供できるかが問われています。

医療はかつて医師が頂点になって行ってきましたが、今は、患者さんを取りまく多職種の連携で行われています。約40年前、私が初めてアメリカの医療施設を見学に行った時には、すでにこの多職種連携が始まっていた。

そこで学んだことは、多職種間の「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」という概念を無くすことでした。これは、例えば医師に物申しても時間の無駄だとか、あの看護師はパソコンが苦手だから頭が固いだとか、肌の色が違うから勝手だとか、無意識にそうだと決めつける状況をいいます。また自分に対しても「そのようなことは私にはできない」という無意識の偏見を作ってはなりません。アンコンシャス・バイアスは、正しさを追求するには邪魔な概念ですから、取り払わなくてはなりません。その上で真の多職種間連携が成り立つのです。

私たち医療人は、ひとの命をあずかるプロフェッショナルとして適正な医療と精一杯の支援を施さなくてはなりません。ときには時間とは無関係に動かなくてはならないこともあります。そして安全で安心の医療を施すには、職員間のコミュニケーション、患者さんとのコミュニケーション、そして地域社会とのコミュニケーションが重要となります。これからは患者さんを見つめながら、嬉しいことも、悲しいことも、さまざまな経験をする事でしょう。このような経験が自己の成長に結びつきます。

私共は、「誇りが持てるマグネットホスピタルをめざす」をモットーに、質の高い医療を日々提供しています。このたび、皆さんに与えられた新たな職場で、アンコンシャス・バイアスを取り除いて精一杯邁進して頂きたいと思っています。多くのチャンスを生かし、毎日が新鮮でワクワクする日々を一緒に創造していきます。皆さんに、期待しています。

以上、簡単ですが、入職式理事長祝辞とします。このたびのご入職おめでとうございます。

